

令和元年度 第2回大和市文化創造拠点等運営審議会 会議要旨

1 日時 令和2年1月24日(金)午後1時15分～午後4時50分

2 場所 つきみ野学習センター 202会議室ほか

3 出席者 委 員 5名

事務局 4名(図書・学び交流課長ほか3名)

指定管理者6名(やまとみらい統括責任者、つきみ野学習センター館長、渋谷図書館長、
渋谷学習センター館長、桜丘学習センター館長ほか2名)

4 傍聴人数 なし

5 議題 (1)指定管理者の評価について

6 議事要旨

今年度指定管理を開始した、渋谷学習センター、渋谷図書館、桜丘学習センター、つきみ野学習センターの現場視察を行った後に、つきみ野学習センターにて会議を開催する。

(1)令和元年度指定管理者の評価について(公開)

・事務局から令和元年度の指定管理者の評価について、流れを説明。

・指定管理者から令和元年度の主な事業報告を行った。

【質疑応答】

委 員 :全体を通して、学習センターの位置づけはどうなっているのか。どうしても年配の方が対象になり、もう少し子供に目を向けてもいいのではないか。コミセンとシリウスのそれぞれの役割の間に(地区の)学習センターがあるのなら、小学校区に一館ずつコミセンがあることを考えると、学習センターは中学校との連携がもう少しあっても良いのではないか。中学生の中には、大人顔負けの取組があるので、ぜひ取り組んでみてはいかがか。

事務局 :法体系では学習センターは公民館施設の位置づけとなる。学習センターでは学校教育以

外の乳幼児、児童・生徒、青少年、成人期、高齢期の各期における社会教育の推進を行う。各期における社会教育を推進するように仕様に定め、それに基づき指定管理者が運営をしている。中学生との連携は、非常に悩ましいところである。別の委員会でも、小学校時代は本を何冊読んだという話になるが、中学校に入ると本離れが起きていると話題になる。学習センターでは、中学生向けの事業もあり、大和市は、学習センターや図書館で職業体験も行っている。

指定管理者：先ほど事務局が話したように、中学生向けの取組として職業体験がある。そのほか、学習室開放をして、テスト期間には夕方から多くの生徒が来館している。また、3月のイベント時に中学生を含めたボランティアを募って活動している。まだ足りないと思うが、少しずつ取り組んでいる。

委員：それぞれの施設がどういう年齢層、エリアを対象に、位置づけられているのかなど、もっと説明があるといいと思う。

委員：先ほども出たが、一番気になるのは、中高生。どんなに世の中が変わっても本に支えられて生きていくことは、変わらないと思っている。子どもたちへ本をとというのは大人にも浸透してきていると思うが、自分と向き合い始める年齢で、全く本の存在を知らないで大きくなってしまうのはとてもつらい。本がどれだけ自分の力になっているか考えたときに、若者たちに何とかして伝えたい思いがある。

委員：学生と本と図書館のつながりというのは課題だと思うが、繋がる何かが必要ではないか。例えば学校対抗のビブリオバトルというのもあると思う。

委員：本とバトルという言葉は個人的にはそぐわないと思っているが、若年層に訴求はすると思う。

委員：参加する学生や生徒は一生懸命になる。大和で実施してもいいのではないかな。

指定管理者：シリウスでの職業体験の時に、必ずビブリオバトルをやっている。

委員：ビブリオバトルに参加することは、本を読むことに比べるとハードルが一つ上がる気がする。一方、プレゼンを聞く方は下がるかもしれない。もう一つ手前の取組として、居場所づくりというのがある。シンガポールの公共図書館では、ヤングアダルト層のアイデアを取り入れ彼らの居場所となるようなデザインが取り入れられているところもある。絨毯の上で寝転んで読んだり、靴を脱いで読んだり、座って読んだり、さまざまなスタイルでくつろぎながら本を読める場所がある。

指定管理者：図書館で場を作るという考え方から、新しい取組を最初はトライアルでやっても面白いと思

う。学校連携は先生からの理解もいただきながら、ただのたまり場にならないよう、本との接触を試みて、図書館を居場所と感じてもらえる取組を継続して考えていきたい。

委員：家庭がどれだけ本に支出をするか全国統計がある。本に関心のある人間からすると、驚く程少ない額である。地域によっては街に本屋がないところもあるが、そういったことも意識していかなければならないと思う。

委員：つきみ野学習センターは、入口に忘れ物の写真があって、良いと思った。図書室では、学生ボランティアお勧めの本のコーナーがあり、先ほどの話とつながると思うが、年齢の近い人が本を進めるというのは良いアイデアだと思った。他の図書館もそうだが、大人の本と子ども本が分けてあるのはいいと思う。話は変わるが、シリウスの図書館を含め、市民から寄贈を受けた図書は、どのように扱うのか。

指定管理者：一旦お預かりをして、本の状態などを司書が確認し、受入の判断をする。寄贈された本の取扱いは、寄贈者には伝えていない。それを了解いただいた上で、受入れている。

委員：図書の裏などに寄贈本の印をつけることはあるか。「〇〇様寄贈本」という印のある自治体もあった。

指定管理者：寄贈者から申出があった場合は記載することもあるが、匿名で結構ですと言われることが多い。

委員：図書館で貸出さなくなった本を有効化してもらいたい。ある程度のサイクルで本を変える必要がある。図書館と市とコミセンでうまく活用してもらおうと生きる本が出てくると思う。

委員：意識的に外さなければならない本があると思う。大学などの研究で使われる図書館は過去にはこういう記述があったということで所蔵していく必要もあるが、市民は、地域の図書館にある本は事実、真実が書いているということを前提でいる。その中で30年たった世界地図は、国名などが変わっている。大和は健康に力を入れているが、考えが古くなった本は、外さなくてはいけないと思う。その辺りはどのように取り組まれているか。

事務局：選書基準があり、発行年数、本の痛み、内容、それぞれの館の所蔵状況などを総合的に勘案し、司書の判断を基に除籍している。また、健康に関することは、5年が目安と聞いている。期間の過ぎたものは、シリウスの閉架書庫に移し、学術的に価値のあるものは除籍をせずに保管していく。旧図書館では除籍となった本をイベントで、市民に無料で配っていた。シリウスでは、年間を通して除籍の冊数が多いので、リサイクル書架を設けて恒常的に市民が持ち帰れるようにしてる。団体向けには、継続してリサイクルイベントを6月に実施している。

委員：廃棄基準と受入れ基準を分けてご説明いただく必要がある。

事務局 :選書基準はホームページに掲載がある。その後段に除籍基準がある。

委員 :選書基準と受入れ基準は同じか。

事務局 :その通り。

委員 :選書の判断はどのようにしているのか。

事務局 :選書会議があり、分野ごとに担当の司書がいる。大和市は、指定管理者の司書で選書したリストを、市へ提出いただき、図書・学び交流課で承認している。

委員 :各生涯期に合わせて、バラエティ豊かで素晴らしい取組をされていると思う。講座数にばらつきがあるのは、対象人口比の分析などから違いがあるのか。仕様書で各期ごとにイベントを記載していると聞いたが、インタージェネレーション型のイベントをどのようにとらえているか。今後どのようにしていくかお話いただければと思う。

事務局 :以前、人口比を勘案し市内に学習センターを5か所配置していた。その後、総合計画の中で、大和駅周辺を中央のまち、北のまちの中央林間地区、南のまちの渋谷地区の3つのまちでの取り組みに替わってきた。現状は3つのまちを中心に学習センター、図書館を配置していくということになり、林間学習センターがポラリスに変わっている。

委員 :エリアの中で高齢者が何割などの人口比はあるか。

事務局 :大和市全体で見て、かたよりなく取り組んでいる。

委員 :人口比を把握されたうえでイベントを企画しているか。

指定管理者:南部に高齢者が多いという認識はあるが、それを意識した事業は、今はやっていない。

事務局 :地域の方の提案を基に事業化して好評を得たことから、連続講座になったものもある。

指定管理者:インタージェネレーションを世代間交流ととらえている。今後は人口比の分析を進めて事業を検討していかなければならないと思う。現代的課題の事業では、多世代を対象に年齢制限を設けず、事業を行っている。地域の交流事業で世代間交流に苦勞している。若い世代は学習センターに来ているがなかなか事業への参加までつながっていない。

委員 :結果的に多世代へのサービスになるのと、当初から多世代を目指してサービスするのは分けて考える必要がある。状況はよくわかった。インタージェネレーション型について、海外の事例で、中高生が大人にICTを教えることが行われている。

委員 :細かい部分では、図書館で机や椅子の配置を考えるだけでもサービスの向上につながる。学習センターでは壁と廊下の活用について制限があるのか。渋谷学習センターでは掲示板をよく使い、壁にピクチャーレールが活用されていた。小学生向けのおもしろ科学館やモノづくり等具体的な体験をする取組はすごく評価している。中学生向けとしては、学校との

取組をもっとやっていただきたい。居場所サロンの取組をどのようにしていくか期待している。指定管理になり良くなっているし、期待に応えられるだけの力はあると思う。

委員：渋谷図書館には感動した。椅子の配置や色とか工夫されていて、イメージがとてもよかった。

委員：つきみ野学習センターも渋谷学習センターもギャラリーは無料で貸している。それは市民にとって魅力だと思う。

委員：以前にも話をしたが、これだけ図書館・図書室があるとそこに備えている本のすみわけはどうしているか。今日見た渋谷図書館と他の2つの館にどのような違いがあるか。

指定管理者：選書は、シリウスで一括して行っているが、方針に違いはある。渋谷図書館では、児童向け図書の充実はこれまでも行っており、今後も継続していく。また中高年の利用が多いので、それを配慮した選書を行っていると理解している。

つきみ野図書室では、中央林間図書館であまり児童書を取り扱っていないので、絵本などの蔵書が減らないように気を付けている。桜丘図書室はさらにスペースが小さいので、できるだけ新しい本があること、ちょっと変わった本を取入れていると選書班に聞いている。

委員：この前の評価の際に、中央林間図書館が、まんべんなく揃えているとの話があったので、今日拝見した3館はどうかと思った。工夫があるのなら、わかるようにして欲しい。

事務局：中央林間図書館は、商業ビル3階にあり、荷重の関係から蔵書の許容量を十分に確保することができなかった。網羅的に蔵書できない中で、駅に近く、通勤・通学途中の利用を想定し、手に取って簡単に読める本を中心とした。新聞はデジタルのみでタブレット端末を貸出している。

前回評価の際に、皆様から特徴を持たせて選書をしていくこともありではないかのご意見をいただいていたが、中央林間図書館は立地の特性を考慮した選書を行っている。今も装丁が美しい本、思わず開いてみたいタイトルの本、気軽に手に取りやすい本が多い。全ての分類がそろっていることを理想とするが、バランスを取りながらそれぞれの図書館らしい蔵書としていきたい。

委員：この場では、各図書館の違いがわかったが、市民は理解しているか。

指定管理者：今説明した具体的なお知らせはしていない。各館の特徴をもう少し議論したうえで、広報に取り組んでいっても良いかもしれない。

委員：コミセンでダンスサークルの利用が多い。先の堅いシューズは床を傷めてしまう。学習センターではシューズの使用制限はあるか。またトイレに行く際に履き替える必要があるか。ち

なみに、つきみ野学習センターのホールはどうか。

事務局 : つきみ野学習センターのホールは、フローリングで、シューズカバーを付けていただくようにしている。トイレはシューズを履き替えて利用していただくことになっている。

委員 : 4館で対応を統一した方がいいと思う。

事務局 : 桜丘学習センターも新しくなり、ポラリスも新築で、つきみ野学習センターも2年後に大規模改修を予定している。利用については協力をいただく形になると思う。

委員 : 地域連携の話があったが、いろいろな人材がいるので開発余地があるのではないかな。

委員 : 生涯学習を大事にする掛け声はよくわかる。だが、どうしたら生涯学習となるのか私の中で整っていない。イベントに参加するだけが生涯学習なのか疑問に感じることもある。

指定管理者 : 市は生涯学習基本計画があり、理想とする姿があり、それを実現するためにどのようなことをするのかがある。我々は、きっかけづくりや場づくりを支援することを一生懸命やっている。生涯学習は、本質的には、自分がどうするかだと思う。そのきっかけや機会がたくさんあるようにしていきたい。

委員 : 最後は自分で何かをするということになる。

委員 : イベントに参加していい時間を過ごしたという方が増えていて、それは大事だけど、これからはその後どのようにしていくかとの視点が求められるようになって感じた。

委員 : 健康都市大学がシリウスの4階でスタートした。講座に脈絡がなく、年間363日講座をやっている。そのどれかを見に行くことで一つのきっかけづくりになる気がする。生涯学習として構えると、難しい。やれることや興味のあることから始めることで生涯学習につながる気がする。

委員 : 何かを見つければいい。見つけたら仲間がで、のめりこみ、資料、材料が増えていき簡単にはやめられない。そういうものを見つければいい。

委員 : グループに所属するのを嫌がる人もいる。

指定管理者 : 個人の活動を望む方は、興味のある講座に沢山参加出来るようにして、学習センターでは、サークル化を目指した講座を打ち出し、そういった団体を増やしていきたい。それが生涯学習の一助になればと思っている。

委員 : 抽象的な話になるが、「知識」と「スキル」に加えて「力」の3つは分けて考えることができる。最終的には、「知識」や「スキル」を通じて、「力」を付けていくことになる。みんなで活動し、「コミュニケーション力」や「考える力」をつけることで、豊かな国民が豊かな国を作るという構図になる。やりたいと思うときにやる場があるということが重要だと思う。

委員：生涯学習でさまざまな取組が行われているのはよくわかる。生涯学習活動は、それ自体が目的ではなく、数字には見えないが、力のあるコミュニティができるかが生涯学習活動の先の目標になる。成果ということは難しいが、とても大事な種をまく作業だと思う。

(2) その他

・今後のスケジュールについて、事務局から説明を行った。

7 会議資料

- ・資料Ⅰ 指定管理者の評価について
- ・主な事業報告について
- ・(参考資料) 平成 30 年度大和市文化創造拠点評価書
- ・(参考資料) 平成 30 年度中央林間図書館評価書
- ・(参考資料) 平成 30 年度大和市北部文化・スポーツ・子育てセンター評価書